

# ロタウイルス感染症特別接種のお知らせ



この通知は、**生後1か月になるお子さん**の保護者の方にお送りしています。

予防接種は、感染症からお子さんを守るために非常に効果が高い手段です。このお知らせと、小冊子『予防接種と子どもの健康』をお読みいただき、予防接種の必要性をよく理解した上で接種を検討しましょう。

**特別接種は接種当日に八王子市に住民登録があることが要件となりますので、接種後に市民でないことが判明した場合には費用をお支払いいただきますのでご注意ください。**

## 【予防する病気の特徴】

ロタウイルス感染症は、乳幼児期にかかりやすい胃腸炎の一つで、ロタウイルスへの感染により起こります。ロタウイルスは感染力が強く、ごくわずかなウイルスが体内に入るだけで感染してしまいます。主な症状は、水のような下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛であり、通常1週間程度続きます。脱水症状がひどくなると入院治療が必要になることがあり、まれにけいれんや脳炎、脳症を引き起こすことがあります。

## 【ワクチンの効果】

ワクチンの接種でロタウイルス胃腸炎の発症を約8割減らし、重症化を予防することができます。

## 【対象期間】

令和2年(2020年)6月1日から

## 【接種対象者】

令和2年(2020年)4月2日から令和2年(2020年)7月31日生まれのお子さん

## 【接種費用】

無料

## 【ワクチンの種類】

ロタウイルスワクチンは2種類あります。どちらも飲む生ワクチンで、効果は同等です。同じ種類のワクチンで接種を完了することが原則です。

## 【接種間隔・回数】

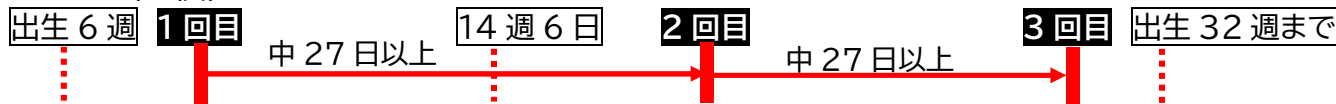
ロタリックス(1価)



全2回

(1回目の接種から中27日以上空けて、2回目を接種) ※1回目は14週6日までに接種

ロタテック(5価)



全3回

(1回目の接種から中27日以上空けて2回目を接種し、2回目の接種から中27日以上空けて3回目を接種) ※1回目は14週6日までに接種

## 【標準接種期間】

1回目は生後2か月から出生14週6日まで

月齢が進むと、腸重積症にかかりやすくなります。そのため腸重積症の起こりにくい早目の時期にできるだけ接種を受けましょう。  
初回接種を15週以降に受けることはお勧めしていません。

【当日の持ち物】 ●母子健康手帳 ●健康保険証(乳幼児医療証)

### 【接種することができる医療機関】

八王子市内の個別予防接種実施医療機関(定期に○)へ電話で予約し、接種を受けてください。  
なお、特別な事情により、市外の医療機関で接種を希望する場合は、事前の手続きが必要ですので保健所健康政策課へお問い合わせください。電子申請の受付も可能です。

市ホームページ  
QRコード



<市ホームページ>

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/hoken/007/003/p026348.html>

### 【複数のワクチンの同時接種】

複数のワクチンの同時接種については医師が判断します。必要性や効果の説明を十分に受け、保護者の同意の上接種してください。

### 【保護者の同伴】

接種日当日は、保護者の同伴が原則です。予診票には保護者が責任を持って記入・署名してください。  
止むを得ず保護者以外(祖父母等の家族)が同伴する場合には、委任状が必要です。事前に保健所健康政策課へご連絡ください。

### 【予防接種の受け方】

接種前

- ① 接種を受けようとする医療機関へ予約をしてください。  
※接種日当日に八王子市に住民登録がある方が対象です。
- ② 接種日前日は入浴し、当日は健康状態を確認し清潔な衣服を着用してください。
- ③ 予診票を医療機関で受け取り、保護者が責任を持って記入・署名してください。

接種後

- ① 母子健康手帳に記入された接種の記録の確認をしてください。
- ② 接種後30分程度は医療機関でお子さんの様子を観察するか、すぐに医師と連絡がとれるようにしてください。
- ③ ワクチン接種後1週間程度は便中にウイルスが排せつされます。排泄されたウイルスによってまわりの方が胃腸炎を発症する可能性は低いことが確認されていますが、おむつ交換後などワクチン接種を受けたお子さんと接した際は手洗いをするなど注意してください。  
※ 接種後の入浴は差支えありません。

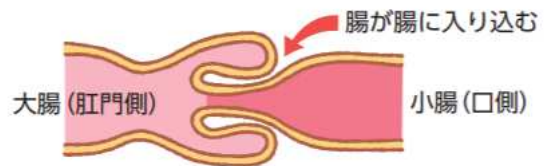
## 【接種後の注意事項】

接種後1～2週間は腸重積症に注意してください。

腸重積症は、腸の一部が隣接する腸管に入り込む病気で、速やかな治療が必要です。

ワクチンの接種に関わらず、3か月～2歳くらいまでの乳幼児がかかりやすい病気です。ワクチン接種後(特に1回目接種後)1～2週間はかかりやすくなると報告されています。次のような症状が一つでも見られるときは、医療機関を受診してください。

- 突然はげしく泣く
- 嘔吐を繰り返す
- 便に血が混じる
- ぐったりして顔色が悪い
- 機嫌がよかったり不機嫌になったりを繰り返す



## 【副反応】

接種後の副反応は、主に下痢や嘔吐、発熱等があります。

非常にまれですが、アナフィラキシー(注)などの重大な副反応があるといわれています。

通常のリアクションのほか何らかの異常(けいれん・高熱など)が強く出た場合には、速やかに医師の診察を受け保健所健康政策課へ連絡してください。

## 【健康被害救済制度】

万が一、特別接種を受けて重篤な健康被害が発生し認定された場合には、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法の規定に基づき、健康被害に対する給付が行われます。

## 【接種することができないお子さん】

- ① 発熱している。※37.5℃以上は接種できません。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかである。
- ③ 麻しん(はしか)、風しん、水痘(みずぼうそう)またはおたふくかぜにかかり、治ってから4週間以上が経過していない、もしくはこれらに感染している確率が高い。
- ④ 生ワクチンを接種してから中27日以上経過していない。※4週間後の同じ曜日から接種可能(BCGなど。)
- ⑤ 不活化ワクチンを接種してから中6日以上が経過していない。※1週間後の同じ曜日から接種可能(B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合など。)
- ⑥ 腸重積症にかかったことがある。
- ⑦ 腸重積症の発症を高める可能性のある未治療の先天性消化管障害(メッケル憩室等)を有する。
- ⑧ 重症複合型免疫不全(SCID)を有する。
- ⑨ 以前に、接種液の成分でアナフィラキシー(注)を起こしたことがある。
- ⑩ 医師が適当でないと判断した。  
※①～⑤に該当する場合は、医療機関に行かずに予約の変更(延期)をしてください。

(注)アナフィラキシー:通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のこと。顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、息が苦しい、嘔吐などの症状やショック状態になるような、激しい全身反応のこと。

## 【医師と相談が必要なお子さん】

- ① 心臓血管系、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患がある。
- ② 過去の予防接種で2日以内に発熱や全身性発疹などのアレルギーを疑う症状が出たことがある。
- ③ 接種液の成分に対してアレルギーを起こす恐れがある。
- ④ 今までにけいれんの症状を起こしたことがある。
- ⑤ 今までに免疫不全の診断がされている場合や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる。
- ⑥ これまでに輸血やガンマグロブリンの注射を受けている。
- ⑦ 胃腸障害(活動性胃腸疾患や慢性下痢)がある。